令和元年度　津山・英田圏域地域医療構想調整会議　議事録

日時：令和元年１０月１０日（木）

場所：津山鶴山ホテル

議題

（１）地域医療構想について

①岡山県地域医療構想調整会議について

医療推進課から資料１の説明

【質疑】

〇副議長

・合意と言われるのは具体的にどういうことか。未議論というのは津山・英田圏域に議論の中に入っているが、議論されてないということか。未だ議論されずという認識か。

〇医療推進課

・調整会議で各病院の具体的な対応方針を全て有床診療所と病院は埋めていく。公立公的は、改革プランの合意は取れているが、民間病院は、将来的な病床の形や対応する医療機能について、合意が取れていないという意味。

〇副議長

・県北部を大きなくくりの中で議論されるのは非常にいい感じがしない。調整会議で高梁、新見のことまで話をするのかという問題があるので資料を作られる際にはそこは分けてほしい。

〇医療推進課

・特徴的な医療需要という形で県南東部と県南西部については医療需要がまだ増えるのに対して、3 圏域が下がるのを特徴的に見せるためだが、今後については気をつけたい。

②公的医療機関等のさらなる取組について

医療推進課から資料２の説明

【質疑】

〇委員

・診療が少ないというのは、がん、心筋梗塞、脳卒中に関してという解釈でよいのか。この中に、一生懸命高齢者を見ている、福祉に貢献、警察の仕事なども評価の対象でないと解釈してよいのか。

〇医療推進課

・ご指摘の通り、今回の分析の対象外。
〇委員
・がん診療というのはどこまでをとっての評価なのか。手術をしてない手術後のことをみているものは、がん診療に該当しないのは、全ての病院の状況を正しく把握できてないと思うがいかがか。
〇医療推進課
・放射線療法は入る。具体的には提示を受けていないが手術ではないか。今回、対象となったのは、病床機能報告で急性期を持っている病院だけで急性期病床を持ってないところは、元々この検証の対象から外されている。
〇委員
・下位３３．３パーセンタイルという表現は、どういう考え方なのか。それから下位３３．３という数字はどこから出たものかを教えてほしい。
〇医療推進課
・人口区分、五つに分け、五つに分けた中で積み上げ 100 万と 10 万の医療圏で下位を比べるのでなく、五つに分けた区分の中で、10 万以下の医療圏の中で全国の 10 万以下の医療圏を集めてその中で下位３３．３パーセントタイル積み上げてそれを少ない方から取っている。多いところから順番を並べて全体の数でその中で下の１／３になったところが該当するという考え方。
〇委員
・３３．３という数字の根拠は何だろうと思った。パーセンタイルを見たときに３３．３という数字が出たので、厚生労働省がどうして出したのかが県の方に報告があれば教えてほしい。
〇医療推進課
・情報はない。今回３３．３という具体的な数字が出たが、狙いは不明で根拠は示されてない。
〇委員
・全国市長会でも、何を一体考えているのかと詰め寄っていくように議論をされていた印象がある。何でこんなことをやり始めたのか文章はあるのか、誰がどう始めたのかいうことについての開示をお願いしたい。
〇医療推進課
・再検証は国からの通知によるものである。再編・合意でまではなかった。必要な医療需要について合意をしたものも含めてじっくり考えていただきたいとお願いしていることころである。
〇議長
・乱暴な数字からでてきているような気もする。我々にも理解できるように公立病院がこうだからと見える形に説明していただきたい。結果だけが、すぐマスコ

ミに出て、この病院どうなのと言われないようにしてほしい。

※議事（１）③以降は、医療機関の経営に関する情報等を扱う部分は、非公開とする。

③病床（増床）について
　事務局から資料３により説明
〇議長
・会議で病床数が出そうな場合は諮らしていただくための調整会議であって、今後そういう状況になればお願いする。

④今後の方針について
・公立病院と近接している民間病院でKY協議会を立ち上げ、連携強化を進めているところであり、協議会の経過等報告。
〇議長
・津山・英田圏域では残念ながら、鏡野病院が上がったが、KY 協議会が進んでいるので今後その方向でよろしいか。
【異論なし、了承】
【今後新たに医療機関の変更を予定している医療機関、なし】

（２）岡山県外来医療計画について
①素案
・医療推進課から資料４から説明

・たたき台を提示

②新規開業・閉院医療機関の状況
・事務局から資料５説明

③各医師会等への調査について
・事務局から資料６説明
【意見】
〇委員
・学校医について大丈夫と思う。産業医については調査に協力できるかはっきり答えることはできない。

〇委員

・医師会は本当に人数が少なくて、どうのように同意されるかどうかわからない。全体的に、保健所の方が意図している意味はわかる。
〇委員
・できるだけ調査して、お渡しする。
〇議長
・アンケートをやりたいとは思うが名簿は個人情報が出ないような形で、返事する。
〇議長
・医療器具の共同利用については一番使っている医療機関ではどうか。
〇委員
・全く問題はない。大賛成。
〇委員
・調査のことで、学校医は園にも小児科医はかなりされている。学校に関しては医師会で調べるよりは行政で調べた方が把握できているのではないか。
〇事務局
・医師会で難しいということであれば、市町村にご協力いただく。ご指摘のとおり園の方が落ちていたので加える。
〇委員
・医療機器の共同利用については、読影をどれくらい担保するかで変わってくる。放射線科医が常駐している医療機関は少ないので、どの程度、依頼側が読影をするのかそれとも依頼された側がするのかで変わってくる。そのところを整理された方がいい。
〇事務局
・見落としていた視点でしたので、調査する時はわかるようにする。

（３）その他
【発言の申し出があり美作市発言】
〇議長
・医師会の方でもこの問題はでている。
〇オブザーバー（県医師会）
・前回の会議で県医師会から中四国の医師会に上げるということで、岡山県の要望として出している。その前に介護医療院の各県の転換の状況は、やはり進んでない。その理由は、今の制度の中でどう変わるかわからないのは見えないという県がある。

・公的病院が責を担う中において、交付税の軽減するための削減、介護保険料の増額の問題があるということで要望を出した。日医としても動かすように話を進めるので、ご了解いただければと思う。
〇副議長
・一般病床で、津山・英田は87%利用率で利用率87%というのは、土日曜日を除いたらほとんど満床で、県北部の医療機関は動いているということが事実。療養型も87.5%で本当にとんでもない数字。県南は岡山県全体が72%で、単純に考えると30%減少はできるという発想になり、10パーセントくらいは減らせるという安易な厚労省の考え方。85%を今拙速に、調整をするというのは、必ず患者難民が出てくる。入院しなければならないけれども入院できない、施設がない、病床がないということが起こる可能性は非常に高い。2025 年には人口推計で、県北は5%減るというのもこれも、間違いない事実。その5%人口が減ったから85%が例えば同じようにパラレルに 80%になっても、必要病床数だと思う。岡山県の南部と北部は違うということを重ねて強調させていただきたい。
〇オブザーバー（県病院協会）

・厚労省の雑駁なデータで右往左往する必要はない。それぞれが立場できちんと

地域の高齢者の心不全とか肺炎とか骨折とか治しているのも急性期だから右往左往することはない。自信を持って医療をしようということをこの間の会合でも言った。
・訪問診療や訪問看護が非常に広範囲の県北の中山間部での対応はこれから非常に大変。訪問看護師の不足、高齢がどんどん減っていく中で、在宅は、県北ではなかなか難しい。そうすると施設とか病院で見ないといけない。県北はある程度、患者も不足するし、看護、介護する人も減ってくるわけだから、10年15年先の人口が減ってきたときの対応は考えながら動いていかないといけない。
・県南はまだ在宅へ持って行く余裕はまだあるが、県北は難しいのではないか。
〇オブザーバー

・地域住民のニーズがどこにあるのか、ニーズに答えることが公立病院の任務だ

ろう。むしろ、診療実績が少ないという表現がマスコミに出て、患者の方が、手術の話をしたら「(他に) 紹介してください。」というような影響が出ている。(診療実績)平成29年の6月時点のたった1ヶ月の拙速なデータ。地域住民の人にそのあたりの認識を持ってもらうしかない。もう出された以上は粛々と考えていくという格好になる。地域で調整会議の今後の医療のニーズというのはどこにあるかを考えていく。
・外来機能でも約半数しか補充できてない。20数件が廃院されて新規は14件と

いうような状況の中で外来機能も、病院側が持つようになり、病院のドクターにしわ寄せがいく気はする。県には議論の状況が本当に厚労省に正しく伝えることをお願いしたい。実際は議論して削減している状況はあるのに正しく伝わってない。今回のデータ分析では例えば、10 万人の津山市と４万人の井原市と 1 万 5000 人の矢掛が同じだけの手術をと言っているので、あり得ない。地域住民とのニーズをよく話し合ってどうしていくのかというのが一番の方法になるので、今後ともよく議論していただければと思う。
〇議長
・先日の地域推進フォーラムで、自治医大の永井先生が「国はいろんな数字を出しています。ただもうそれは一方的な数字であってその本当の意味を理解して、地域に合ったこと、地域にふさわしい地域医療調整会議をするのが一番大切なことです。」といわれたが、津山・英田圏域は決して医師の過剰な地域ではない。診療所が減る中で、決して過剰なく、この地域に応じた今後の会議をしていきたいと思う。

【次回のお知らせ】
12 月 3 日（火）１８：３０～鶴山ホテル